

学びに向かう力 人間性等	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 (1)健康な心と体(2)自立心 (3)協同性(4)道徳性・規範意識の芽生え (5)社会生活との関わり(6)思考力の芽生え (7)自然との関わり・生命尊重 (8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (9)言葉による伝え合い(10)豊かな感性と表現 社会と関わる力 人と関わる力 主体的に生活する力 学級の仲間や先生、校内の自然に親しみを持ち、学校での生活やルールを守って生活することができる。 気持ちを伝え合ったり、楽しくしようと工夫したりして、仲間と関わるができる。 健康な心と体で生活し、意欲的に活動に取り組み、主体的に行動することができる。			
	月	4月		5月
生活や学習場面における各目標にかかわる願う姿(例)	一日の流れや過ごし方を知る。 道具の使い方、生活のきまり等を知る。 係や当番活動に取り組み、自分の役割を果たす。 学校に親しみ、適切に行動する。 ・用件を伝える。 ・連絡帳や提出物の出し入れをする。 ・トイレや手洗い場の使い方を覚える。 ・手洗いや消毒等の約束を知り、適切に行う。 ・靴箱やロッカーを正しく使う。 ・職員室、保健室を覚える。 ・ノートや鉛筆の使い方が分かる。 ・廊下の右側を静かに歩く。 ・遊具の使い方やルールを覚える。 ・掃除場所と掃除の仕方が分かる。 ・整列して教室移動をする。 ・給食の配膳方法が分かる。 ・自分の係の仕事を果たす。 ・特別教室の利用の仕方が分かる。 ・道具や給食等、ルールを守って片付ける。 学級の仲間を知る。 仲間との関わりを楽しむ。 仲間とやりとりし気持ちを伝え合う。 仲間と協力して活動を工夫する。 ・仲間と挨拶をする。 ・隣の席の子の名前を覚える。 ・並び方を覚える。 ・簡単な自己紹介をする。 ・仲間と名前呼び合う。 ・仲間と休み時間を過ごす。 ・お互いに挨拶をする。 ・自分から仲間に声をかける。 ・仲間と楽しく休み時間を過ごす。 ・生活班の仲間と一緒に活動する。 ・ルールを守って遊ぶ。 ・新しい仲間と積極的に関わる。 意欲的に登校する。 自分の生活を自分で整える。 活動に興味を持ち、最後までやりきる。 見通しを持ち、自主的に行動する。 ・元気に返事をする。 ・先生を見て、話を静かに聞く。 ・登下校の集合場所や帰り道を覚える。 ・外で元気に遊ぶ。 ・姿勢よく座る。 ・授業に必要な物を準備する。 ・伝えたいことを自分から話す。 ・先生や仲間の話を最後まで聞く。 ・時間のけじめをつける。 ・教師の引率に頼らず下校できる。 ・全校が集まる場で落ち着いて行動する。 ・進んで授業の用意や片付けをする。			
	関連的・総合的に扱う各教科・領域の内容	■生活「どきどきわくわく1ねんせい」 ■国語「どうぞよろしく」「なんていおうかな」 ■算数「なかまづくりと かず」 ■音楽「うたって なかよく なるう」 ■図工「すきな かたちや いろ なあに」 ■体育「体ほぐしの運動」 ■学活「ならびっこ」 ■学活「じこしょうかい」	■生活「がっこうだいすき」「きれいにさいてね」 ■国語「こんなもの みつけたよ」 ■算数「なかまづくりと かず」 ■音楽「セブンスステップス」「ひらいたひらいた」 ■図工「どんどん かくのは たのしいな」 ■体育「固定施設を使つての運動遊び」 ■学活「そうじの しかたを おぼえよう」 ■道徳「がっこう だいすき」	■生活「がっこうだいすき」「はなをさかせよう」 ■国語「よくきいて、はなそう」 ■図工「ちょき ちょき かざり」 ■体育「おにあそび」 ■英語「あいさつしよう」 ■学活「かかりをき めよう」 ■道徳「あかるい あいさつ」
指導計画の作成と指導の工夫(例) ○指導計画の作成 ●指導の工夫	○45分の単位時間や教科の枠にとらわれない 合科的・関連的な指導を行う。 ○生活科、音楽、体育など学年で行動する機会を 多く設定する。 ○掃除、休み時間等6年生とのつながりの中で活 動できるようにする。 ●園からの引継ぎを把握し、個に応じた指導を心 がける。 ●一人一人に声をかけ、温かく受容する。 ●トイレの時間を随時設ける。	○短い時間での切り替え、分かりやすいゴール、 遊びの要素や身体的活動を取り入れた楽しさを 意識した授業を行う。 ●朝の会や帰りの会、給食準備、休み時間の動き 等、同じ流れを繰り返し、生活のリズムを作る。 ●孤立している子、自分の思いを伝えられない子 に対する支援を行う。 ●チャイムを守って活動を切り替えることを覚え られるようにする。	○45分授業の割合を増やし、1時間の流れをつかめ るようにする。 ○2年生とのつながりを意図的に計画する。 ●やってみたい、知りたいと主体的に取り組めるよう な指導過程を工夫する。 ●指示を受けなくてもできるようになることを目指 し、できたことを評価する。 ●個の特性に応じた支援を継続し、周囲の児童への理 解を図る。	○生活班での行動を取り入れ、自主的にかかわる場を設 けるようにする。 ○ひらがなの指導は、他教科においても継続的に扱う。 ●聞く・話す等、学習のルールを積極的に守ろうとする 姿を紹介する。 ●困ったことや分からないことを、人と関わりながら解 決できるよう声をかける。
幼保小の連携(例)及び家庭との連携	☆入学後、児童や保護者に関する新たな情報があれば、小学校へ情報提供をお願いする。 ☆学校の様子や行事の情報を幼稚園・保育所(園)に積極的に発信することで、学校の取組の理 解を得る。 ☆入学式の日、家庭から提出された「チューリップだいさくせん」のシートを預かり、取組を 通して家庭で身に付けたこと(挨拶、用具の準備、片付けなど)を学校生活で生かし、家庭で 生活習慣づくりに引き続き取り組んでもらえるようお願いする。また提出されたシートは、児 童の生活の姿の把握に活用し、認め印をつけて児童に返却する。		☆できるだけ早い時期に幼保小連絡会(授業参観・情報交換会)を開催し、幼稚園・保育所(園)の職員 と、児童の様子の交流に努める。 ☆公開保育等に参加して授業を参観することで、幼児の様子を理解し、情報交流に努める。 ☆通信等で、1か月間の成長の様子を紹介する。 ☆家庭訪問等で、学校での様子を伝えたり「チューリップだいさくせん」の取組以降の家での生活習慣を 把握したりすることで、家庭と共通理解を図り、指導に生かしていく。	